

リアルタイムのアプリケーション可視化・制御を評価 Active Directoryと連携したきめ細かな ポリシー運用への可能性を拓いたPA-2020

日本最大のベンチャーキャピタルである株式会社ジャフコは、ユーザーごとのきめ細かなアプリケーション制御に向けて、次世代ファイアウォール「PA-2020」の評価導入を実施。投資先にかかわる非常に秘匿性の高い情報を扱う同社にとって、柔軟な情報収集とコミュニケーションのためネットワークアプリケーションの利用と情報流出につながるリスク回避という相反する課題を解決するソリューションとして、PA-2020は高い評価を得た。

機密情報の保護を命題とする高度なセキュリティ対策

ジャフコは、1973年の設立以来、ベンチャーキャピタル事業を中心に、未上場企業投資運用会社のパイオニアとして活動してきた。株式上場を果たした社数は、国内686社、アジア・北米を中心に850社を超えている（2009年5月現在）。

同社の特徴は、企業のすべての成長ステージ・業種・地域に対応する「フルライン投資運用」体制を戦略の一つに掲げていること。また、投資先企業に対しては、販路拡大、事業・資本提携、海外進出のコーディネートといった経営支援を行うVA (ValueAdded) 活動の専門部署を設置し、投資先の企業価値向上に組織的に取り組んでいる。

同社の投資運用担当者が扱う情報は、非常に秘匿性の高いものである。例えば、未上場企業の決算情報や開発中の最新技術・製品の情報、ファンドの運用実績——。こうした機密情報が多く、それゆえに、情報流出に対するセキュリティ対策は、これまでも十分かつ高度な対策を講じてきている。

「セキュリティ強化には、常に高い意識で臨んでいます。一方で、海外ベンチャー企業とのコミュニケーションにSkypeを利用したり、広く情報収集するためにmixiなどのコミュニケーションサイトへのアクセスも必要であり、業務アプリケーションと関係ないからといって、一律に利用禁止ができないのも現実。アプリケーション制御の可能性を探りたい」。システム管理部アシスタントマネージャーの源常 冴氏は、PAシリーズを評価導入した背景をこう述べる。

ジャフコはベンチャー企業に投資するとともに、その企業の製品評価などにも積極的に協力しており、パロアルトネットワークスの次世代ファイアウォールの評価導入も、その一端である。

リアルタイムのアプリケーション可視化を高く評価

今回の評価導入の目的は、ユーザーごとのアプリケーション制御に向けた、利用アプリケーションの可視化。PA-2020をプロキシサーバ配下にTAPモードで配置し、1週間にわたってトラフィックをキャプチャしたもの。その評価結果は、全体的には一般的な企業ネットワークと比べると、確認されたアプリケーションリスクのレベルは平均的に低く、おおむね良好なセキュリティ環境だったという。その一方、使用が少ないとはいえ、ファイル転送サービスやファイル共有等のアプリケーションの利用、インスタントメッセージやWebメールの利用、不要な帯域占有が懸念されるビデオストリーミング系のアプリケーションが確認された。また、ブログやSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）などへのアクセスも見られたという。

ファイル転送サービスは業務上必要な範囲で許可していることをはじめ、投資運用部門が



株式会社ジャフコ (略称 JAFCO)

東京都千代田区丸の内 1-8-2 第二鉄鋼ビル
<http://www.jafco.co.jp/home/>

分野

ベンチャーキャピタル

導入背景

- 機密情報を保護する高度なセキュリティ環境の維持
- 部門ごと、ユーザーごとのアプリケーション利用の制御

ソリューション

- PA-2020 によるアプリケーション利用の可視化
- Active Directory と連携したユーザーごとのアプリケーション制御、ポリシー運用

「Active Directoryと連携したアプリケーション制御やポリシー運用が可能なPA-2020は、投資業務のセキュリティ強化に非常に有効と考えています」



源常 冨氏
株式会社ジャフコ
システム管理部
アシスタントマネージャー

広く情報収集できるようにコミュニケーションサイトへのアクセス（閲覧のみ）も個別許可している。最近ではYahoo!動画などストリーミング系の利用が増えていることに源常氏は驚いたという。

「従来であればプロキシサーバのログを解析しなければ、どこへアクセスしているのか、どのようなアプリケーションが利用されているのかわかりませんが、パロアルトネットワークスの製品はリアルタイムで把握・分析できました。リスクを迅速に把握して対処できることは、セキュリティ対策上、非常に有効だと感じました」(源常氏)とし、リアルタイムなアプリケーションの可視化機能を高く評価している。

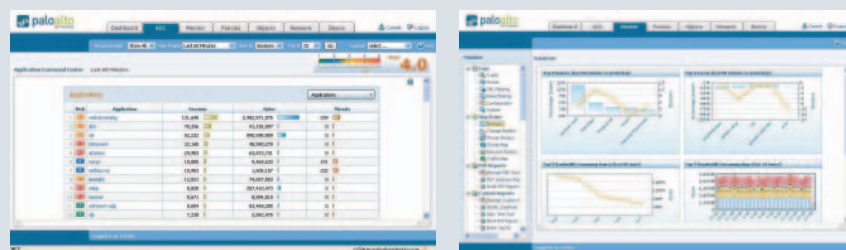
ユーザーごとのきめ細かなアプリケーション制御に期待

源常氏は、投資運用業務中心のフロント部門、投資先ファンドの企画・運用・管理や投資先支援・審査を行うミドル部門、管理業務のバック部門の各セグメントに応じた柔軟なポリシー設定を行い、さらに個別ユーザーごとにアプリケーション利用を制御することが理想的と指摘。

「従来のファイアウォールのポリシー設定は一律にON/OFFしかできませんが、アプリケーションを可視化するとともに、Active Directoryと連携してユーザーとグループの情報に基づいてアプリケーションとコンテンツを監視・制御できるPAシリーズは、部門やユーザーによって柔軟なポリシー対応を必要とする会社にとって有効と考えます」(源常氏)と強調する。

また、同社では今後、セキュリティ強化のためにシンクライアント化を計画しているというが、IPアドレスとユーザー情報のマッピングによってユーザーの活動を制御できる点は、きめ細かなポリシー運用が可能になると期待している。

高い評価を受けた管理者インターフェース (イメージ)



PAシリーズの管理者インターフェースに搭載されるACCではリアルタイムでのレポートを提供。ネットワーク上を流れるアプリケーションやその利用ユーザーをランキング形式で表示することで、ネットワークの可視性を実現した。



パロアルトネットワークス

E-mail: InfoJapan@paloaltonetworks.com

www.paloaltonetworks.jp